岩手県立生涯学習推進センター

研修実施報告 Web版

実 施 日：令和２年10月９日（金）
実施場所：水沢地区センター
受講者数：26 名

人づくり・地域づくり関係職員等研修講座（県南地区）

公民館・地区センター等の生涯学習関係職員、特別支援学校教諭、中学・高等学校の教諭・保護者等 26 名の方に受講いただき、障がいのある人もない人も共に学べる生涯学習とは何か、どのようなニーズがあるのか、また合理的配慮についての研修を行いました。

職　員　研　修
有志指導者研修
要　請　研　修

【事例発表】「障がいのある人の地域社会での活動」

いわて発達障害者サポートセンターえぇ町作り隊
代表理事　熊本　葉一　氏

ＮＰＯ法人えぇ町作り隊　代表　熊本葉一氏からは、自閉症の子どもが地域で活動するために商店の人の協力を得ながら必要なスキルを獲得することを目指した「えぇ町探検隊」の取組をご紹介いただきました。「自閉症の子はうまく買い物できれば、必ずリピーターになる。そして地域が活性化していく」ということでした。ＶＴＲにより自閉症の特性を理解できました。

盛岡広域圏障害者地域生活支援センターＭｙ夢　所長工藤宏行氏からは、相談機能を紹介いただきました。また、就労している障がい者が、興味関心に応じて学んだり、悩みについて意見を交換したりする「在職者交流会」について紹介いただきました。工藤氏によれば、この会の講師を務める方々は、それぞれの道の達人であり、障がいに関する知識はなくても、相手に合わせ、伝わるように臨機応変に指導していただいているとのことです。

盛岡広域圏障害者地域生活支援センターMy夢
所長　工藤　宏行　氏

【講義・演習】「障がい者の生涯学習ニーズと『合理的配慮』」

盛岡大学短期大学部　幼児教育科
教授　嶋野　重行　氏

講師の盛岡大学短期大学部教授　嶋野　重行氏からは、「障がい者の生涯学習」が求められるようになった社会的背景と法的根拠からご説明をいただきました。また、求められる合理的配慮の具体例及び実際に障がい者の利用する施設において支援者から回答いただいた「学習ニーズ」の調査結果を示していただきました。

演習では、「障がい者の生涯学習を進める私の提言」と題して協議を行いました。受講者からは「異業種の方々とのディスカッションがとても勉強になり、気づきが多くあった」という感想が寄せられました。

《受講者の声》

- 障がい者の生涯学習については、初めての学習機会で大変有意義だった。
- 障がい者について何も知らなかったので、いろいろなことを知るきっかけとなった。一般の方の意識改革も必要だと感じた。
- 事例を受けて、その後の演習では内容につながる深い話し合いをすることができた。

《受講者の評価》

Ａ（有意義）	76.2%
Ｂ（どちらかといえば有意義）	23.8%
Ｃ（どちらかといえば有意義でない）	０%
Ｄ（有意義でない）	０%

《担当者（八重樫）から》

新たな取組に、戸惑いを感じる受講者もいましたが、「だれでも、いつでも学べる生涯学習」を提供するために、できることを探していきたいと思います。